

海外法人の人材強化 新たな変異株流行に対応

オリコンサルHD

オリエンタルコンサルタ
ンツホールディングス（H

中期経営計画を近く策定す
る考え。

ゲットにスマートシティー
や鉄道などの運営・維持管

D）の野崎秀則社長は、11
月30日に東京都内で開いた
2021年9月期の決算説
明会で今後の受注戦略を明
らかにした。新型コロナウ
イルスの変異株「オミクロ
ン株」が流行する中、海外
現地法人の人材を増やすな
どして受注業務の遅延防止
策を強化する。26年9月期
にスタートする次期5カ年

国内は国土強靱化関連や
地方創生など五つの重点事
業で受注を伸ばす。地域内
に点在するインフラごとに
維持補修などを行うのでは
なく、包括管理などをベ
ースとする総合事業を展開。
PPP/PFIといった官
民連携事業への積極参入を
狙う。

海外は発展途上国をター
ゲットにスマートシティー
や鉄道などの運営・維持管
理（O&M）に注力する。
野崎社長は「変異株の影響
を加味しつつ、業績目標を
立てている」とコメント。
米澤栄二オリコンサルグロ
ーバル社長は「現地駐在者
に引き上げを要請した。今
後は現地法人を強化しつ
つ、遠隔的に施工監理など
ができる体制が主流にな
る」と見通した。

現中期計画で掲げる連結
ベースの営業利益30億円
（21年9月期実績は32億87
百万円）を4年前倒しで達
成。25年9月期の目標を売
上高800億円（683億
5百万円）、営業利益40億
円に見直した。次期計画の
目標数値などは未定だが、
売上高を1000億円規模
に設定する公算が大きい。
経営方針を▽革新▽挑戦▽
変革と位置づけ、国内外
で均整の取れた受注活動で
収益基盤の強化に努める。